

監事 退任のあいさつ

前沖縄県医師会 監事
(ひがハートクリニック) 比嘉 耕一



生涯勤務医で終わると考えていたのですが、リーマンショックの翌年 2009 年に開業しました。開業していなければ医師会での活動もなかったと思います。開業と同時に浦添市医師会に入会し、2014 年には理事に推薦していただきました。2016 年には山里将進先生の後を襲って沖縄県医師会の監事に当選させていただきました。

私が就任時の監事には名嘉恒守先生、喜久村徳進先生のお二人がいらっしゃいました。月日の経つのは早いもので私が最年長になってしまい、そして 2026 年 6 月に退任いたしました。この間印象に残っていることを少し述べます。

まず 2016 年の県医師会初の会長選挙です。僅差で安里哲好先生が決選投票に進み、会長に当選しました。劇的な結末でした。そして 2024 年に行われた会長選挙では田名毅先生が当選しました。若さと、情熱、意欲が感じられました。2 つ目はコロナウイルスのパンデミックです。2019 年 11 月に武漢で発生し、沖縄ではダイヤモンドプリンセス号の寄港から始まり、全国でも感染が拡大しました。2020 年から 2023 年の県医師会及び各地医師会の取り組みや行政との共同事業、ワクチンの接種事業、発熱外来、PCR 検査センターと様々な活動が組織化され、実践に移されていきました。

理事会に参加していると色々な情報を少し早く手に入れることができます。厚労省の支援事

業で発熱外来に対して補助金を出すというのがありました。色々準備をして実際に発熱外来を行い補助金をいただくことが出来ました。しかしながらのちに厚労省の示した条件、計算式の結果でほとんどを返却することになりました。これは苦い思い出の一つです。

理事会では県の地域医療構想の推進に向け活発に議論が行われていました。地域によっては急性期病院が多く、回復期病床が少ない地域がありその解消が問題でした。特に病床数に関して相互に利害が対立する面があり複雑です。また県立病院の建て替え移転事業等もいろいろな意見が出されていました。議論に深みがあり新聞に発表されるのは一部だけで、その裏には多くの会議、議論の積み重ねがあることが理解できました。

理事の先生方は毎週 1 回火曜日の理事会に出席するほか、その他担当の業務をこなし東京、九州等への出張と公務が多忙です。自分の時間がほとんどないのではと思えるほどです。献身的なお仕事に対し心より感謝の意を表したいと思います。

また理事の業務を支えるシェパード的な役割の事務局の皆様のお仕事なくしては県医師会の活動も成立しないと思われます。

最後になりますが、県医師会の活動に関与できたことを誇りに思っています。監事の職を与えていただきありがとうございました。